

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイリスクラブ浪速		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の課題やニーズに合わせて、日々の活動プログラムが展開されている。	個室が2室あるので、子どもの特性や活動内容に応じてグループ分けやスタッフ配置を行っている。	活動を行うフロアを分割できる様にする事で集中できるスペースの確保を行う。
2	個別支援計画や専門的支援計画に基づいて、個々の支援課題等活動プログラムに盛り込めるように意識して支援に臨んでいる。	5領域を意識したプログラム内容を一日の活動プログラムとして偏りが無い様に取り入れている。	利用日によって子どもの特性や配慮が変化していくので、スタッフ間での活動スケジュールの共有や役割分担などを最適化できる様に日々の情報共有やコミュニケーションを密に取っていく。
3	関係機関(小学校等)にて利用児童の様子を見学し、情報共有や相互理解を図る地盤が少しずつできる様になってきている	保護者からの意向だけでなく、保護者との関わりや普段のコミュニケーションの中から思いをくみ取って、提案する事でその後どうしていくかに繋げられるようにしている	限られたスタッフで行っている事が多いので、現在外部と連携を担当しているスタッフに他スタッフも同行し、OJTも兼ねて実践できる環境を増やしていきながら、スタッフ全体のスキルアップにつなげていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動遊び時、活動スペースが不十分だと感じる事がある。	事業所内の活動スペースが狭いため、運動等の活動の種類が制限されてしまう。	個室等、フロアと繋げられそうな場面(運動では、サーキット遊び等)で活動できる場所の拡張(それに伴い、スタッフの配置等も危険がない様に工夫していく)。また、体を思いきり動かせる様に安全面により配慮していく。 外部施設の使用も検討していく。
2	その日のプログラムやスタッフ配置、ねらい等共有を行っているが、共有が紙面のみにしている事がある。	スタッフ間での意識の欠如やコミュニケーション不足もあり、統一した取り組みが出来ていない。	スタッフそれぞれが意識を持って確認をする・また相互に声掛けをしながら意識を高めていく。 事業所内でのスケジュールや流れを調整し、共有できる時間を捻出していく
3	地域で事業所としての役割を理解していただけるような交流やイベント等が現在行っていない。	事業所単体では取り組みに関して動く事が難しい事もあり、課題に対して進める事ができていない。	自立支援協議部会等のコミュニティや資源を通して、課題に対して地域を巻き込みながら取り組んでいきたい